第1回手話言語及び情報コミュニケーションに関する条例の検討会議概要

- 1 日 時 令和7年3月10日（月）14：00～16：00
- 2 場 所 広島県庁本館6階会議室
- 3 出席者 別紙出席者一覧のとおり
- 4 次 第 別紙のとおり
- 5 会議概要 各委員の発言は、いずれも要旨である。

（1）開会

健康福祉局地域共生社会推進担当部長 山縣部長が挨拶

（2）会長選任

委員から長谷川委員の推薦があり、委員に諮った結果、長谷川委員が会長に選任された。

（3）条例の制定について

資料1により、事務局から説明

（会長）

まずは、①「条例制定の背景と全国の状況について」、②「条例の必要性について」、③「条例の制定形式」について、質問をいただき、その後に意見交換としたい。

（委員）

先進県・市などで、条例をすでに制定しているが、それによる効果等の情報を事務局が把握しているならば、検討するうえで参考になると思うのでお聞きしたい。

（事務局）

県の会議、首長の記者会見等で情報保障をはじめた例がある。

鳥取県など、サークルの運営補助や検定試験の補助を実施しているところもある。

県としても、他県の条例を参考にして、条例制定後の施策を検討していきたい。

（委員）

制定について、県の考えはわかった。条例をつくるにあたって別立で進めていくことについて

も理解できたので、反対はしない。

ただ、難聴者の立場から申し上げると、広島県情報コミュニケーションと言うと、幅が広すぎて捉えにくいイメージがある。例えば県知事の定例記者会見に手話通訳はあるが文字言語は出ていない。障害者差別解消法に基づいているとは言えない。すべての障害者が誰もが安心して過ごせるための条例をつくるのが大事なので、広島県情報アクセシビリティ・コミュニケーション条例をつくっていただきたい。アクセシビリティというのは、あらゆる障害者が必要な情報を取得できることであり、情報のバリアフリーを確保するという。そのためには、アクセシビリティ条例を願っている。

(会長)

質問ではなく意見になると思うので、後程事務局から説明させていただく。

(委員)

最初別立型にする意味がわからず、誰でも対象にする一体型が良いかと思っていた。ただ、ろうあ連盟や本日の説明を聞いて、目的が違っているのも理解した。

一体型として10の県が制定しているが、それで問題が起きた事例はあるのか。

(事務局)

報道等で確認した中では、滋賀県では団体から異議申し立てが出ている。

他の都道府県について、こちらでは把握していない。

(委員)

事務局の説明に補足させていただきたい。一体型に異議が出たのは、ろう者が受けてきた差別についてはっきり示されていないとの思いがあるからだ。手話言語に対する理解をすすめるのなら、ろう者の歴史を無視したり、薄れた形にしてしまうのは良くない。個人的には一体型でも良いと考えるが、ろう者が受けてきた歴史的な経緯を踏まえたら、広島県としては別立として制定するのは納得感のある提案だと思っている。

(委員)

条例をつくる目的は、共生社会の実現が大きなテーマと理解している。共生社会の具体的なイメージや例について、県で検討しているのか、そのイメージづくりもこの検討会議内で取り組んでいくのか、教えて欲しい。

(事務局)

資料1の10ページに、県の基本理念と目指す姿を記載している。基本理念の実現に向けた5つの目指す姿により、共生社会の実現を図っていくものと考えている。

(委員)

自閉症協会は発達障害・知的障害・自閉症が主となる。広島県内における発達障害者等の意思

疎通支援の現状についてどのようにとらえているか。

(事務局)

発達障害児者の意思疎通支援についても、県に寄せられた相談事例等を踏まえるとまだ不十分と考えている。県として障害の特性に応じた意思疎通について、様々な場面で、理解されるよう伝えていく必要があると考えている。

(委員)

他県で図書館協議会の委員を務めているが、障害者情報アクセシビリティ・コミュニケーション施策推進法では図書館の果たす役割が大きいと言ってきている。だが、資料での広島県の主な取組には図書館での取組について触れていない。私は、図書館の専門家として県や市などに改善提案もしている。記載がないことで、県として意思疎通への理解について課題があると考えている。専門家からの指摘もあるので、もう少し工夫して、踏み込んで考えてもらいたい。

(事務局)

図書館の読書環境の整備も重要だと考えており、意見を踏まえて整理したい。

(会長)

質問がこれ以上なければ、意見に進みたい。先程委員から、情報コミュニケーションだと幅が広く、アクセシビリティを全面に出した方が良いとの意見があったが、他の委員から意見はあるか。

(委員)

13ページの「法と条例のすみ分けについて」が、基本的に先程の提案に対する説明になっているのではないかと。条例を制定していく中で関係団体から意見を聞き、それは踏まえたうえになるものと理解している。

(委員)

私は耳が聞こえないが話すことはできるため、健常者と間違えられることもある。人生の途中で耳が聞こえなくなった人のことを考えていただきたい。外から見えない障害なので社会の理解が遅れている。社会でどうやって理解を深めていくかを考えたとき、条例のテーマそのものは誰もがわかるものでなければならない。誰もが理解できて、誰もが障害の受容を出来て、分け隔てなく情報が提供され、障害の有無に関わらず分け隔てなく社会生活をおくれるのが共生社会であり、それを実現してもらいたい。

(会長)

個々の事例についてはこの検討会議内では難しいと思うので、意見を出していただいて、それを踏まえて県としてどう答えていくのかを出してほしい。

(委員)

自分達の主張や思いが人に伝わらない、軽んじられていると感じたら、しっかりと発信していかないとマイナスになる。私自身も難病者であるが、他人に理解していただくのは難しい。十分にそれぞれの意思が伝わっているか、県もしっかりと考えてほしい。

(会長)

県としては、各委員から意見を出してもらい、それを踏まえた回答をした上で、条例案を作成していくということでしょうか。

(委員)

今回条例を制定するというところで、議題としてまず①～③を提案させてもらった。今後、県としても、様々な御意見をいただき、内容についても検討していきたい。回答についてはすぐに出せないものもあるが、まずは条例制定の進め方について、御意見をいただきたいと考えている。

(委員)

スピード感をもって制定をしていただければと思う。各市町では自立支援協議会を実施しており、積極的に議論している。県独自の条例とするために、各自立支援協議会での検討してきた地域課題等も集めてもらえれば、良い意見が得られるのではないかと。

(委員)

市町の役割を盛り込んでほしい。県の責務として施策の推進は基本計画等を書いてあり、視覚の関連ではICT機器を利用することが多いが、費用負担が大きい。より視覚障害者が利用しやすいよう市町に対して補助基準額の見直しなどを義務づけできるような条例としてほしい。

また、言語としての手話をどうやって普及や習得の機会を確保していくのか、例えば小学校の授業として学習時間をとるとか、できるだけ具体的な方策を条例に盛り込んでほしい。

(会長)

制定形式については、県から別立型で進めたいと提案があった。この方針について、異議があるか。

【異議なし】

(会長)

それでは、別立型として、今後検討を進めていただきたい。続いて、④「専門部会の設置について」、⑤「今後のスケジュール」について、質問や意見はあるか。

【意見なし】

◆ 議事（２） 条例の骨子案について

- ・ 資料２を事務局から説明

（委員）

情報コミュニケーション条例の意思疎通支援者等とは、各団体や福祉・教育分野で支援者を養成しようと考えているのか。

（事務局）

わかりやすく意思疎通支援者の養成としたが、ご指摘のように団体等も入ってくるかと思う。具体的な本文についてはこれから検討する。今後文書での照会も予定しているので、意見を出してほしい。

（委員）

情報コミュニケーション条例の骨子案については、意思疎通が強調されており、アクセシビリティの表現が少ないと感じる。図書館の役割等も含めて、情報へのアクセスについて盛り込んでほしい。

（事務局）

法との整合性を踏まえ、検討したい。

（委員）

意思疎通手段等の学習の機会の確保について、県民の関心と理解だけでなく、障害者当事者自身の学習の機会についても触れてほしい。

（事務局）

当事者の学習の機会は重要なので、どう条例に入れるか検討していきたい。

（委員）

情報コミュニケーション条例について、視覚的情報のアクセスについて追加してほしい。高齢のろうあ者は教育の機会がなかったこともあり、緊急時や災害時の視覚的情報による情報取得が大事となってくる。

また、両条例に共通するが、他県では条例の最後に検討委員会を設置している。条例制定後にも課題は出てくると思うので、事務局に任せるのではなく、検討委員会等で話す機会がほしい。

（事務局）

災害時の情報取得については、骨子案の「情報の発信・入手」に含めるよう検討している。検討委員会の設置については、既存の会議体で行うのか、新たに設けるのか検討していきたい。

(委員)

難病だとALSでは、視線をたどって意思疎通を取るが、今は視線をコンピューターで読み取り人工言語を発する機器も出てきた。当事者団体の努力等で行われてきたが、情報を発することが大事なことだという認識があり、当事者からの意見も出て、取組が進んだ。

両条例とも、なぜ条例の制定が必要か、前置き・前文が必要である。背景を伝えないと、差別的な意識は変わらない。特に手話についてはろう者のつくった文化であるが、真っ向から否定する口話教育が行われたことに対する反省も踏まえて、条例が制定された背景が明確に示される必要がある。

(事務局)

なぜ条例を作るのかは大事だと考えている。背景について、前文で入れるのか、他にするのか、検討していきたい。

(委員)

西日本豪雨や能登地震で実感したが、情報コミュニケーションは命を守ることに直結している。災害についても情報発信で触れられているが、災害その他の部分については一つの項目としても良いのではないかと思う。奥能登支援でも、障害のある人が避難所に行けず、支援を受けられないケースに直接何例も出会った。

(事務局)

災害時の情報入手については、命にかかわることなので、どのような項目にするか検討していきたい。

(委員)

情報コミュニケーション条例の「市町への支援」とは、県と市町の責任の分け方になるのか。

(事務局)

現段階では県の責務として考えている。委員からの御意見も踏まえて、検討していく。

(会長)

他に意見がなければ、骨子について、本日の意見を踏まえて、事務局で検討し、案を作っていく方向で進めていく。次回までのスケジュールについて、事務局から説明をお願いする。

(事務局)

本日の意見を踏まえて、骨子を整理するとともに、骨子をベースに条例の叩き台を作成したい。そして、次回の会議までに各委員に意見照会をし、頂いた意見を元に事務局で整理し、次回の検討会議で協議していきたい。

次回は5月を予定している。

(委員)

11月のデフリンピックまでに制定を目指すことについて、以前から県に対して意見として伝えていた。このタイミングで条例の制定をすることで、より普及しやすいと考えている。御協力いただきたい。

(事務局)

デフリンピック日程に合わせて、2つの条例を制定することで、より県民への理解促進が深まるのではないかと考えている。

(委員)

今後の骨子案を修正して素案の叩き台の提示をする予定と聞いているが、時期の目途を教えてください。

(事務局)

3月中から4月上旬で考えている。

(委員)

9月議会に提案とのことだが、新しい取組がないと実効性のある条例にはならないと考えている。9月補正か、難しければ来年度の当初予算に向けて、財政上の措置を伴う施策の展開を考えた方が実効性のある条例になると考えている。

(事務局)

いかに県民に普及を図っていくかについては、県としても重要だと考えている。財政上の措置については、今後検討していきたい。

(3) 閉会

障害者支援課 畝本委員が挨拶。

第1回手話言語及び情報コミュニケーションに関する条例の検討会議 出席者一覧

※敬称略、県職員を除き五十音順

	所 属	氏 名 (職)
1	広島盲ろう者友の会	大杉 勝則 (理事長)
2	広島県手話通訳問題研究会 (代理)	大村 宣枝 (理事)
3	広島県手をつなぐ育成会	金子 麻由美 (会長)
4	広島自閉症協会	金丸 博一 (理事)
5	広島県視覚障害者団体連合会 広島県立視覚障害者情報センター (代理)	金岡 峰夫 (常務理事兼事務局長)
6	広島県要約筆記サークル連絡会	神垣 巖 (会長)
7	広島県身体障害者団体連合会	川中 克幸 (副会長)
8	広島県ろうあ連盟	迫田 和昭 (理事長)
9	呉市福祉保健部障害福祉課 (欠席)	高浜 理加 (主幹)
10	広島県難聴者・中途失聴者支援協会	伊達 元一郎 (理事長)
11	広島難病団体連絡協議会	西河内 靖泰 (会長)
12	県立広島大学保健福祉学部保健福祉学科	長谷川 純 (准教授)
13	広島県精神保健福祉家族会連合会	原田 勉 (理事)
14	広島県教育委員会特別支援教育課	津村 真一郎 (課長)
15	広島県立広島中央特別支援学校	三浦 直宏 (校長)
16	広島県立広島南特別支援学校	秋山 努 (校長)
17	広島県健康福祉局障害者支援課	畝本 孝彦 (自立支援担当監)
事務局	広島県健康福祉局	山縣 真紀子 (地域共生社会推進担当部長)
		秦 俊治 (GL)
		高原 寛 (主査)

第1回手話言語及び情報コミュニケーションに関する条例の検討会議 次 第

日時：令和7年3月10日（月）
14:00～16:00
場所：広島県庁本館 6階 講堂

1 開 会

2 会長選任

3 条例の制定について（資料1）

- ① 条例制定の背景と全国の状況について
- ② 条例の必要性について
- ③ 条例の制定形式について
- ④ 専門部会の設置について
- ⑤ 今後のスケジュールについて

4 条例の骨子案について（資料2）

5 閉 会